

CIVL 総会レポート（速報）

by 岡 芳樹（現地出席）、牟田園明（リモート）

開催期日：2023年3月2～5日

開催場所：ドン・ヘンリケホテル（ポルトガル、ポルト）

開催スケジュール：

3月2日13：30～18：30 HGXC/PGXC 合同委員会、ソフトウェア作業部会

3日09：00～18：30 PGA 委員会、HGXC 委員会、PGXC 委員会

4日09：00～18：30 総会、各選手権立候補地のプレゼンテーション

5日09：00～12：00 総会、各選手権開催地選挙、役員選挙

参加国：

現地出席：アルバニア、オーストリア、ブルガリア、フィンランド、フランス、ハンガリア、
イタリア、カザフスタン、北マケドニア、ポーランド、ポルトガル、ルーマニア、セルビア、
スロベニア、スペイン、英国、ブラジル、チェコ、ノルウェー、スイス

リモート参加：アルゼンチン、オーストラリア、ベルギー、中華人民共和国、香港、イラン、
ラトビア、マレーシア、モンゴル、スウェーデン、タイ、トルコ

委任状：デンマーク=>ノルウェー、ドイツ=>スイス、スロバキア=>チェコ、ベネズエラ=>
ブラジル

総会での決定事項で特に気になる事項（頭の数字は ANNEX の番号）

A) 全種目に関するもの：

6（CIVL 会長レポート）3月末までに FAI に年会費を払っていない国の SL は無効となる

17（大会における事故に関するレポート）アクシデントレポートをどのように集めるか、なかなか
難しい現実。公認大会においてあった、2件の死亡事故は共に HG（1つはスペインでの空中衝突、1
つは韓国で緊急着陸時にコンクリートの壁に激突）

23B（公認料の改定）（カテ2：現在エントリー費の1.5倍=>2倍に、カテ1：現在競技日数×
競技パイロット数に対して4.5ユーロ=>6.75ユーロに）施行は2024年に開催される大会か

ら。

2 3 G (S7 共通の項目 7 を、パイロットおよびチームリーダーに必要な情報の伝達方法のプライマリーとしてメッセージプラットフォーム（テレグラム、ワッツアップなど）を利用する。このようなグループを大会開始 1 週間前までに設立することとなった。

2 3 H (スポーティングライセンスを持っていない選手の扱いに関する提案) CIVL は FAI ルールを尊重する必要があるが、コントロールするのは NAC の責任であるとして、以下の文言を追加することとなった。

* カテ 1 およびカテ 2 イベントの主催者が CIVLEMS でイベントを登録することは必須である。

* カテ 1 およびカテ 2 イベントに参加するパイロットは CIVLEMS に登録することは必須である。

* 問題が生じた場合、FAI スポーティングライセンスデータベースにある情報のみが考慮され、NAC が発行した物理的または仮想 FAI スポーティングライセンスは考慮されない。

* FAI スポーティングライセンスデータベースに入力された情報（名前、規律、有効性の日付など）が正しいことを確認するのはパイロットの責任である。

* CIVL が受け取った結果は正しいとみなされ、すべてのパイロットはそれに応じてランク付けされる。

* NAC は、CIVL のウェブサイトで公開されたすべての結果とランキングをチェックし、特に FAI スポーティングライセンスがないパイロットを考慮して調整を求めることができる。

* CIVL ウェブサイトで公開されているすべての結果とランキングは、大会の最終日から 3 か月経過した後、最終とみなされる。

2 3 I 例外的な状況において、CIVL 理事会は、公認されていない大会やスポーティングライセンスを所持していない選手に WPRS ポイントを与える権利を留保することは承認された。

2 3 J カテ 2 公認に関して、公認管理費の最低を 7 0 € に改定とする。また、払い戻しの場合、管理費は返金されない。との文言を削除する（現状では、一度入金された公認料は払い戻しするのではなく、今後の大会の公認料としてクレジットとして残されているため）。

2 3 O カテ 1 大会のテストイベント（本戦の 1 年前に開催される）が他のイベントとバッティングしないように十分な余裕をもってカテ 2 大会として FAI カレンダーに掲載されるように公認申請をする

との文言を S7 共通の 2. 4. 5 に追加することとなった。

3 1 B 昨年ジュニアクラスを認めることとしたので、記録飛行にもジュニアクラスを含めることとする
こととなった。

3 3 M ベルギーからの、S7E の 2. 3 (参加選手の質) 現状では大会主催者が出来るだけ多くの WPRS
のトップパイロットを参加させたいがために、ランキングの低い(しかし、実力はある)選手を選ばな
い傾向があるので、これを是正する提案) 否決されたが理事会へ付託された。

3 3 N 恐らく、PG ワールドカップを念頭に置いていると思われるベルギーからの、現在、トップラン
カーはとりあえずかなり未来の大会に一応参加表明をするが、最後の最後まで実際参加するのかキャン
セルするのかの意思表示をしない。これはトップランカー以外の選手の参加機会を奪っていることにな
るので是正する提案は否決されたが理事会に付託された。

B) HGXC・PGXCに関するもの：

2 3 C S7 共通の 4. 4. 5 高度違反において、現在はまず気圧高度でチェック。気圧高度に問題が
あった場合にのみ、第一あるいはバックアップの GNSS 高度を考慮する事が出来る。となっている。こ
れを； 4. 4. 5 高度、空域違反として、GNSS 高度でチェックし、問題が起きた時には気圧高度
(基準点での補正がなされている) も使用できることとする。ただしローカルルールで変更することも
可能とする。に変更する。

2 3 D S7A の 6. 3. 2 現在、高度検証において、QNH に基づく気圧高度で空域が定義づけられ
ている場合は、主催者は公式の参照テイクオフ高度をフィートおよびメートルで、またその日の気圧設
定 QNH を提供しなければならない。となっている。これを空域は GPS で測定された海拔高度で定義
づけ、大会ディレクターは、その日の高度の上限と特別な高度制限(新しいもの)をタスクボードに書
き込むこととし、この情報はフィートとメートルで書かれる。また、テイクオフにおける既知のポイン
トの正確な高度とポイントの位置も、タスク ボードに書き込まれることとする。に変更する。

2 3 E S7A の 6. 3 の制限空域の違反で、現在、侵入禁止空域から外側 1 0 0 m 以内に入るとタス
ク結果にその旨リストアップされる(ペナルティ無し)。水平・垂直共に、禁止空域内に 3 0 m 以上侵入
するとそのタスクゼロ。垂直方向では境界外側 X X m からゼロ m までは直線的にゼロ%から Y Y %のペ

ナルティ。境界内側ゼロ m から 30 m までは直線的に YY % から 100 % のペナルティとする。XX、YY の数値はローカルルールに明記される。となっている。これを大会主催者は、大会におけるすべての制限空域を含む空域ファイルを提供する必要がある、これらの禁止された空域には、垂直方向および水平方向に少なくとも 100 メートルのバッファを含める必要がある。そして、大会で定義された空域の垂直方向または水平方向において、禁止空域内に 0 メートルから 100 メートルに侵入した場合は直線的に 0 から 100 % のペナルティを科すこととするに変更する。

23F 雲中飛行に関する提案) 現在、雲中飛行とは、グライダーまたはパイロットの任意の部分が、近くにいる監視員またはパイロットの視界から消えることとして定義される。これを、雲中飛行とは、グライダーまたはパイロットの任意の部分が雲中に入っていることとして定義されるに変更。また、現在ある、高度を制御できないほど、強力なサーマル中で活発な雲に近づきすぎるパイロットも、雲中飛行と見なされる場合がある。また、遷移レベルの上まで雲の側面を上昇することは法律に反しているため、これはコンプレインが出された場合に他のパイロットよりも高くなったことの許容できる言い訳とはならない。は削除。また現在、パイロットが不注意で雲に吸い込まれた場合、そのパイロットには、アドバンテージが得られなかったことを示す責任がある。これを、スコアラールまたは MD がパイロットが雲中飛行したのではないかと疑っている場合、そうでないという証拠を提供するのはパイロットの責任であるに変更。

23N S7A の 2, 2, 6 カテ 1 大会での参加要件の例外規定に関する文言にある「免除を受けた後、パイロットがカテ 1 のイベントに参加した場合、そのパイロットは、通常の資格基準を満たさない限り、さらにカテ 1 のイベントの資格を得ることはできない。」つまり、例外は一生で 1 回のみ認められる文言を削除することとなった。

31A 現行の S7D に記録飛行挑戦に関して、一つの記録のみ宣言できるようになっているが、これはスポーティングコード総則の 7.7 に抵触するので、2 つ以上の記録の宣言が出来るように文言を修正することとなった。

33G ブルガリアからの、現在ターンポイントは中心点と半径からなる円で規定されている。これだと最適ルートは自ずと絞られてしまい、ルートのオプションが限られる。その不都合を解消するために、ターンポイントとして直線（中心点とそこから決められた両方向へ決められた距離延びる線）を導入す

る提案) はただし書きとして2025年5月から施行することとして承認された。

C) HGXCにかんするもの：

33A スペインからの HG クラス1 選手権においてクラス5 とクラス1 女子を含め、参加枠も125 人から140 人に増やす。またそうなることをもって2025 年の世界選手権の立候補をする提案は理事会で適切に協議することとなった。

D) PGに関するもの：

23K PG のサブクラスとして世界 XC オンラインコンテストで使用されているもの(一部修正) を踏襲することとする。

オープン：すべてのグライダー

シリアル：すべての EN/LTF 認証機

スポーツ：EN-C/LTF2 以下

スタンダード：EN-B/LTF1-2 以下

23Q 最近流行っているハイクアンドフライの大会ルールを標準化し、カテ1 およびカテ2 大会として開催できるようにするため、作業部会長としてトーマス・セネック(フランス) を任命し作業部会を立ち上げることとなった。

E) PGXCに関するもの：

25 PG 委員会からの提案(認証取得最大飛行重量が95kg 以下のグライダーをサブクラス「Reynolds」として2024 年開催される大陸選手権で試行する) は Reynolds=>Light Weight に変えて決を採ったが、僅差で非承認

33B スペインからの PGXC 世界選手権並びにヨーロッパ選手権における参加資格条件にある、WPRS ランキング500 位以上では国によってはチームを形成することが出来なかったり、女子選手を送る事が出来なかったりするため700 位以上に変更する提案は承認された。

33D アルゼンチンからのパンアメリカン選手権での3 人の陪審員と1 人のスチュワードの計4 人の

費用を負担するのは大変なので、リモート陪審とする提案は理事会が適切に判断することとなった。

3 3 E ブルガリアからの、PGXC に関して、S7F の 1 0 ポイントの配分の PG 関連では、現在リーディングのウエイト(LW)は 0. 1 6 2 (1 0 0 0 点タスクで最高 1 6 2 点) に固定されている。一方タイムウエイト(TW)はゴール率(GR)により変化する。ゴール率が小さくなると、タイムウエイトが小さくなる。ゴール率がある値より小さくなるとタイムウエイトがリーディングウエイトより小さくなり、スピードが速く(トップゴールしたとし)てもリーディングしていないとリーディングしている選手がランキングで上位になる可能性があるため、これを是正するために以前の GAP システムに戻す提案は承認された。

3 3 F ブルガリアからの、PGXC に関して、タスク決定に際してエリアとコンディションによる複雑さから、競技委員長はマルチスタートを採用する傾向にある。そうすると、早くスタートするよりコース上でのスピードが重要となり、リーディングポイントの重要性が減少する。現状ではそれに対して調節ができない(リーディング・タイム比率(LTR)がデフォルトの 2 6 % に固定されている)ので、タスクによって競技委員長が LTR を 1 0 ~ 4 5 % (この数値の妥当性を判断するためにカテ 2 では 0 ~ 5 0 % の範囲内で試行できることを推奨)の範囲内で決定できるようにする提案は承認された。

F) PGA に関するもの :

2 3 L S7C に異議申し立てとしてコンプレインとプロテストがあったが、どちらも書面によるものであった。そこで、一つ手前の口頭での異議申し立てとしてオブジェクションを追加することとなった。

3 3 L スロベニアからの S7C (PGA) に関する提案 :

1 . 1 . 4 . 4 (ターゲット) 現在、ターゲットは平らで実質的に水平な場所に置かなければならないとなっている文言を削除。

4 . 4 . 2 (ターゲットの構造) 現在、湿度の高い天候や霜や氷がある場合でも、ターゲットは滑りにくい素材でなければならないとなっている。しかし、後段に、チーフジャッジがターゲットの表面およびセッティングを承認するとの文言があることから、この文言を削除する。

4 . 6 (風速記録計) に風速はターゲットエリアで視認できなければならないとの文言を追加する。

5 . 4 . 2 (自動計測装置) カテ 1 では大会開始時点から新品または工場で再生された AMD を使用す

る必要があり、その装置に500回ランディングすることによりそのラウンド終了時点で交換する。あるいはその装置に信頼性が無いと判断されたら交換されなければならないとの文言を追加する。

9. 3 (ジャッジチーム) 現在のターゲットは以前の10mではなく2mになっているので、ターゲットジャッジも走り回る必要もなく、テクノロジーも進化するので、人数を削減(カテ1とテスト大会では2名減、カテ2では1名減)する。

5. 4. 4 (チームスコア) チャンピオンシップ大会では、最初の6ラウンドのみがチームの最終スコアにカウントされるとの文言を追加。

5. 4. 3 (個人スコア) に5. 4. 3. 1 (ノックアウト) として、最初の6ラウンドは選手全員がフライトし、そのうちのベスト60人が7, 8ラウンドをフライトし、そのうちのベスト40人が9, 10ラウンドをフライトし、そのうちのベスト20人が11, 12ラウンドをリバースオーダーでフライトする。ネクストラウンドへ進めなかった選手はDNQあるいはDNFとマークされる。カテ2大会ではノックアウトされる選手の人数は調節が可能でローカルルールに明記されるとの文言を追加する。

8. 1. 1 に EN 認証機のみが飛行を許可されるとなっているのを、LTF および CCC 認証機も追加する。それに従って S7I のガイドラインおよびテンプレートも改定する。

*S7C の適切な項目に、新たに男子1名、女子1名、計2名からなるチームを構成し、成立した全ラウンドの合計で競うことを追加する。は承認された。

330 チェコからの提案:S7C (PGA) に関して

1. 1. 4. 6 (ターゲットエリア) の最後の文言「ターゲット エリアは、AMD から 30m の最小距離に対して、平らで実質的に水平である必要がある。」を削除

2. 2. 1 (参加資格) にウインチトーイングに関して、

*NAC ライセンスまたはトゥレーティング、資格、または経験を明記したレター。

* FAI 認定の牽引競技会の主催者が署名した飛行日誌または証明書。

* トーイングトレーニング コースの修了証明書。を提出することとなっているが現実には提出されていないので、単にトーイングの経験があることと改定する。は承認された。

G) その他:

今後の選手権開催地決定

2024年PGA ヨーロッパ選手権=>アルバニア、Gjirokaster

2024年PGXC パンアメリカン選手権=>ブラジル、Andradas-Minas Gerais

2025年PGXC 世界選手権=>ブラジル、Andradas-Minas Gerais

2025年PGA 世界選手権=>トルコ、Alanya-Antalya

2025年HG クラス1、クラス5、クラス1女子世界選手権=>スペイン、Ager

2025年HG スポーツクラス世界選手権=>イタリア、Laveno- Mombello

37 次回総会の場所に関して韓国から立候補が出ていたが承認された。2025年に関してモンテネグロが関心を示している（ただし、現在モンテネグロにはNACが存在しないため、NACが存在することを条件とする）

選挙 理事会からの提案が承認され、無選挙で確定

会長 Bill Hughes（アメリカ合衆国）

第一副会長 Igor Erzen（スロベニア）

副会長 Goran Dimiskovski（北マケドニア）、Zeljko Ovuka（セルビア）、Jamie Shelden（アメリカ合衆国）、Christiano Pereira（ポルトガル）

事務局 Stephane Malbos（フランス）

財務 Andy Cawley（英国）

PGXC 委員会 委員長：Chistiano Pereira（ポルトガル）

PGA 委員会 委員長：Martin Jovanoski（北マケドニア）&Kamil Konecny（チェコ）

PGACRO 委員会 委員長：Alexandra Grillmayer（ハンガリー）& Theo de Blic（フランス）

HG 委員会 委員長：Jamie Shelden（アメリカ合衆国）